

# 東濃社会教育だより

## -まちづくり編-



恵那県事務所  
振興防災課 振興係  
社会教育担当:岩島  
〒509-7203  
恵那市長島町正家後田 1067-71  
TEL:0573-26-1111 内線 208

## 土岐市あいさつデー (夢・絆プラン)

## ~今回のピックアップ事業~

『あいさつ』により、学校・地域・家庭を繋ぐ

土岐市教育振興基本計画 『夢・絆プラン ~織部の地で、未来を築く人づくり~』後期計画(平成27年度~平成31年度)の中に、基本理念『夢をもち 人との絆の中で育ちあう 土岐市教育』に迫るため、トリプルアクション(授業トリプルクオリティ・家庭教育トリプルアクション・地域教育トリプルアクション)という具体的な方向性が位置づけられています。その中の『家庭教育トリプルアクション』と『地域教育トリプルアクション』に『あいさつ』が位置づけられています。その象徴的な取組が『土岐市あいさつデー』です。

青少年育成市民会議が中心となり、昨年度から7月と11月の年2回実施されています。学校・地域・家庭の3者が一緒になって行うことで連帯感を築くとともに、「あいさつ」について市民に広く啓発を図ることが目的です。

今年度第1回のあいさつデー(7月4日開催)では、市内で680名程(昨年度400名前後)が参加され、確実に広がりを見せていることがよくわかります。

実際のところ、以下のような点が成果として挙げられています。

◎事前に役割分担を行う町もあり、各種団体との連携を図る動きが出てきた。その結果、昨年度より参加人数が増えた。

◎学校・PTAなどで展開されている各校のあいさつ運動とタイアップした動きが見られるようになってきた。

◎10月1日号の本報ときまの記事掲載、10月15日号でのチラシの全戸配付によって、周知が広がった。

◇あいさつの啓発、学校・地域・家庭の連携をめざして、行政担当者が全面的にバックアップした成果が、町の主体的な動きとなって現れています。



(あいさつデー当日の様子)

## 『かさばら いこまい祭』のその後

(笠原中央公民館)

昨年度の10月、『東濃社会教育だより』の初回号で取材させていただき、『いこまい祭』について掲載しました。その反響はとて大きく、事務所にも多くの問い合わせがありました。その大きなポイントは、『中学生の参画(中学生によるプロデュース)』でした。

大人が子どもに任せ切る（見守る）という姿勢は、9月に恵那総合庁舎で開催された『社会教育主事等研修会兼地域コーディネーター研修会』の中で実践発表された、郡上市白鳥地域公民館（平成28年度 恵那市中野方コミュニティセンターとともに文部科学省優良公民館表彰受賞館）と見事に共通するところでした。

その『かさばら いこまい祭』が今年度どんな進化を遂げたのか興味深く、再度訪問して話を伺いました。対応してくださったのは、「いこまい祭」実行委員長と笠原中央公民館の方でした。お祭りを通して、地域のことを想い、子どもたちの参画について、同じ方向を向いて取り組んでみえることを実感しました。

地域の活性化にもつながる『いこまい祭』

【平成29年度版ちらし】



- ◇ 中学三年生18名によるプロデュースを前回取り上げましたが、一年後の今回、『かさばら いこまい祭』の着実な発展、将来にもつながっていくであろう進化が見られました。
- ① 単学年だけでなく、複数年がプロデューサーとして加わったこと  
（昨年度は三年生のみ構成でしたが、今年度は三年生に交じって、一年生2名が仲間入りしました。）  
↓ 昨年度の三年生の姿を見て、憧憬を抱く。
- ② 卒業生（昨年度の三年生）11名が高校生プロデューサーとして加わったこと  
↓ 昨年度の体験による充実感や新たな決意、お祭りに参加してやってみてほしいという思いが生まれる。

◎ 中学一・三年生、そして高校一年生によるプロデュースにより学年の幅が広がったことは、お祭りそのものの活性化、今後にもつながるよいサイクルの構築であり、更に『笠原町』そのものの発展・まとまりにもつながっていくことが大いに期待できると思われれます。

【参加した生徒の感想】

- ☆ 昨年、中学生だった時より仕事が増えて、空いている時間が少なかったけど、その分楽しかったし、充実できた。来年になってみないとわからないけど、また参加したい。  
（高校生）
- ☆ みんなで同じところに向かっていることが実感できた。  
（中学生）
- ☆ 不安もあったが、みんなで取り組んで達成感があった。  
（中学生）
- ☆ 今一年生なので、来年も是非参加したい。  
（中学生）
- ☆ 今までの『いこまい祭』の中で一番楽しかった。  
（中学生）



【高校生スーパボールすくい】



【中学生〇×クイズ大会】

各出店・企画に責任をもって取り組む姿がありました。



【プロデューサーへの感謝状】

こうした心遣いは子どもたちの充実感となります。

## 東濃地区社会教育振興協議会研修会のまとめ

8月22日(火)実施の研修会に参加して下さった方の感想、まとめの抜粋です。課題も多く挙がりましたので、熟議を重ね、来年度以降に反映させていきたいと考えております。有難うございました。

### ◇中津川市 加子母公民館実践発表について

○大変参考になり、地域づくりに活かしてみたいと思いました。

○自分の地域・公民館で活動していることを加子母が発表された活動内容・項目に当てはめてみました。

当てはめてみることで、問題点に気づくことができ、次の活動につなげていけると思いました。各委員会が個々で活動しているので、もっと連携していかなければと大変参考になりました。

### ◇中津川市 社会教育委員基調提案について

○地域の子どもたちへの愛情と実行力の素晴らしさに感動しました。このような素晴らしい人材を地域から掘り起し、活躍していただく過程が子どもたちが育つ貴重な場になると思いました。

○苗木の子どもを豊かに育てたいとの願いから子育てセミナーが始まり、そこから様々な願い・やりたいことが生まれ、それを社会教育委員が聞き取り、公民館を支え、コーディネートすることにより、活動に広がりがあることが素晴らしいと思いました。社会教育委員として、どんな活動をしていったらよいか参考になりました。

### ◇益川 浩一先生の講話について 【満足・概ね満足 83%】

○地域と学校との関わりについて、新たな方法論を学んだ。地域学校協働活動について検討してみたい。

○学生の取組は大変参考になりました。益川先生のお話の中にも、「傾聴」の大切さがありましたが、学生も阿木の住民の声に耳を傾け、課題を見つけることで、何をしたらよいか見出していた点を私が担当する地域でも実践してみようと思いました。

### ◇グループワークについて 【満足・概ね満足 84%】

○皆さんの話が聞けてよかったです。今後取り入れたい講座などもありました。それぞれの立場の意見も参考になりました。



## 東濃地区社会教育・家庭教育関係者研修会を実施しました

10月3日【火】

恵那総合庁舎にて、社会教育・生涯学習担当者と家庭教育担当者合同の研修会を初めて開催しました。平日のお忙しい中でありながら、20名の方のご参加を得て実施することができました。講師は、土岐商業高等学校校長、岩村町教育長等の要職を歴任され、現在も佐藤一斎顕彰会会長、NPO法人いわむら一斎塾理事長等でご活躍の鈴木 隆一先生を招聘し、『地元の先人（佐藤 一斎・下田 歌子）から社会教育・家庭教育のあり方について学ぶ』というテーマでご講話をいただきました。

佐藤 一斎・下田 歌子、それぞれの「人となり」から教え、そして生涯学習に対するお考えまで、わかりやすく語っていただきました。

『1年先を見る人は花を植える。10年先を見る人は木を植える。100年先を見る人は人を育てる。』、社会教育・家庭教育を担当する立場として、念頭に置いておきたい言葉です。

### 【参加者からの感想】

☆佐藤一斎の言葉に触れると、自らの学び、生き方、志を改めて問い直すことができ、快い時を過ごすことが出来ました。

☆地域の先人について知らないことも多く、大変参考になりました。キーワードとして『志』の大切さが語られたと思います。生涯学習の基礎について再認識させていただきました。